

検査医学

科目責任者 小 飼 貴 彦
学年・学期 3 学年・3 学期

I. 前 文

臨床検査医学 Laboratory Medicine は、疾病の診断、病態の解析、治療効果の判定に客観的なデータを提供する学問である。現今、臨床検査は高度に多様化しており、多くの検査は中央化された検査室で大型の自動機器や訓練された技師により実施されている。出されたデータの信頼性を判断し、診断、治療に役立てるのは医師自らの責任である。

この一連の講義は、総論と各論に分けられる。総論では、検査の意義、有用性、効率、基準値、精度管理および検体採取法が述べられ、また、それぞれの検査の検査法、臨床的意義、異常値を示すメカニズムなどが述べられる。

各論では、臨床各科の学習内容を検査の立場から総合的に再構築し、検査医学への理解をより実践的にかつ確固たるものとすることを目標とする。

当該授業科目は卒業認定・学位授与方針の到達目標 基本的技術として修得するものの検査分野に必要な不可欠な知識、技能を提供する。

- 1) 基本的な診療技術を修得すると共に、正常と異常とを判断できる能力
- 2) 問題点を総合的に判断して、その解決を図る能力

II. 担当教員

ゲノム診断・臨床検査医学講座、越谷病院臨床検査部、内科学（リウマチ・膠原病）講座、看護学部/大学院看護学研究科、臨床各科、PETセンター、その他の教員（詳細は講義計画表参照）

III. 一般学習目標

臨床検査（検体検査および生体検査）の原理と異常値の出るメカニズムを理解する。臨床検査全般を横断的に見ることにより、疾病と病態を理解する。

IV. 学修の到達目標

検体検査では、基礎医学の知識、特に生理学、生化学、免疫学の知識と臨床検査の知識を関連付けて総合的に理解する。生体検査では、基礎医学の知識、特に物理学、解剖学の知識と臨床検査の知識を関連付けて総合的に理解する。

検査の実施されるステップを理解しながら、正しい検体の採取および誤った採取で生じる結果の変化を理解する。臨床検査情報に基づいて診断計画、治療計画を理解する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	1	15	金	1	検査の基礎 (1)	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
2		15	金	2	検査の基礎 (2)	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
3		19	火	1	検査とチーム医療	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦 臨床検査センター 湯 石 晃 一	1, 2

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
4		19	火	2	感染症の検査（細菌・寄生虫）	埼玉医療センター 本 田 なつ絵	1
5	1	19	火	3	超音波検査	福島県立医科大学 志 村 浩 己	1
6		19	火	4	神経生理検査（脳波・筋電図）	看護学部/大学院看護学研究所 宮 本 雅 之	1
7		19	火	5	腎機能検査	福島県立医科大学 古 屋 文 彦	1
8		21	木	1	血液学検査	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦 臨床検査センター 新 保 敬	1
9		21	木	2	自己免疫性疾患の検査	内科学（リウマチ・膠原病） 藤 井 涉	1
10		21	木	3	心電図・呼吸機能検査	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦 臨床検査センター 松 本 浩 子	1
11		21	木	4	生化学・血清・凝固検査	ゲノム診断・臨床検査医学 伊 藤 裕 佳	1
12		21	木	5	感染症の検査	ゲノム診断・臨床検査医学 福 島 篤 仁	1
13		22	金	1	遺伝子検査（1）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
14		22	金	2	遺伝子検査（2）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
15		22	金	3	RCPC（1）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1, 3
16		22	金	4	RCPC（2）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1, 3
17		22	金	5	RCPC（3）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1, 3

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験，事前確認テスト，出席状況を総合的に判断して評価します。

定期試験（80%），事前確認テストおよび出席状況等（20%）

但し，状況により割合が変わることがあります。

※定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特定の書籍を教科書としては指定しない。参考図書を挙げる。

医学書院：標準臨床検査医学，高木 康，山田 俊幸 編集

医学書院：異常値の出るメカニズム，河合 忠 監修，本田 孝行，山田 俊幸 編集

医学書院：検査値を読むトレーニング：ルーチン検査でここまでわかる，本田 孝行 著

医学書院：臨床検査データブック，高久 史麿 監修，黒川 清，春日 雅人，北村 聖，大西 宏明 編集その他，各臨床科にて使用されている図書

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。担当教官に直接連絡すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の正答は、試験後に公開する予定。

質問や問題の適切性に関して学生からのフィードバックを受け付ける。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊を参照すること。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊を参照すること。